

選挙のためだけの甘言に騙されるな!!

「内閣府が5月13日公表した3月の景気動向指数は前月から0.9ポイント下落し、景気の基調判断をこれまでの『下方への局面変化』から『悪化』に引き下げた。基調判断が「悪化」になるのは2013年1月以来6年2カ月ぶり。中国経済の減速などが響いた」とマスコミ各社が報じていた。つまり2012年12月から続いてきた「戦後最長の景気」から一転して「悪化」と認識を変えた。そこに参院選を前にして、またもや10月実施の消費税増税の延期がささやかれ始めただけではなく、吹聴する予言者たちが「予想は当たった。これで庶民は納得するだろう。そして衆議院の解散、衆参同時選挙が安倍首相の胸の内にある」と書き立てている。

また安倍首相の側近中の側近である萩生田光一自民党幹事長代行がネット番組で「消費税増税延期」に言及したことが油に火を注ぐ形となっている、また一部報道によれば、沖縄と大阪の衆院補選における自民党2連敗を受けて政権内からは「増税延期はおろか、消費税5%への減税を参院選前に打ち出すべきだ」との意見も出ているという。そこで「選挙のためだけの『消費税延期』など1-1の甘言に騙されるな」と述べたい。

しかし「このような表現にはニュースの読者からは「消費税増税に反対」という点では野党各党が一致している。我々も10月からの消費税増税には反対である。当然歓迎だ」という反発の言葉が返ってくるように思うが、こと「今の安倍政権に限って言えば、それは国民をだます犯罪にも似た行為である」と言いたい。

そこで安倍政権の意図を考えてみよう

これまで安倍首相は、リーマンショック級の危機が起これないかぎり実施するという決まり文句のフレーズを国会などで繰り返してきた。しかし安倍政権は「消費税の延期、あるいは使い道の変更について国民の信を問いたい」として実施してきた過去の選挙においては自民圧勝の結果をもたらしている。現在は、かつての反動、監視主義の時代ではない。国民(有権者)が誰に監視されることなく自分の一票を投じることが出来る。その結果として安倍政権の一強体制が生み出されたとするなら、それは国民が選択をしたと言っても過言ではない。だからと言ってそれを「主権者の選択責任」とすることができないことを皆で考えてみたい。

消費税増税の激変緩和措置として、政府は商品券やポイント制度などを導入するための膨大な費用を盛り込んだ予算案を「増税反対」の野党

を押し切り強行成立させたのはほかならぬ安倍政権である。またこれらの動きを受けて、市民生活の現場ではポイント還元を見込むクレジットカードを求め、さらには中小店舗におけるクレジットカード発行措置のため2798億円の支出を予算化した。また増税前にローンを組んで、マンションや戸建て住宅を買おうとする動きなどの「駆け込み需要」を発生させている。安倍政権がいまさら増税を反故にし、予算まで無駄にするのであれば、それは権力掌握のための詐欺の類と言わざるを得ない。

とやかく言まされた社会保障と防衛費

もう一つの焦点に社会保障費がある。過去最高の34兆587億円になるとして、概算要求時に6千億円と想定されていた高齢化に伴う自然増分を4768億円に圧縮させた。さらに幼児教育・保育の無償化など消費税増収分を使った施策が上乘せされ総額は大幅増となっている。加えて、それらの駆け込みに乗じて「中期防衛力整備計画」に沿い、防衛費は過去最大の5兆2574億円を計上したことも見逃してはならない。米国製の高額装備品購入などは対米配慮に基づいたトランプ大統領の言いなりである。

重ねて主張したい。「選挙のためだけの甘言に騙されるな」と。そして議席増を狙うもう一つの大きな狙いに憲法改悪を強行するための衆・参両院における絶対多数(三分の二)の獲得であり、それが「消費税増税の延期を超える意図」であることと見抜かなければならない。(文責・降矢)

無防備の母娘・園児に

凶器と化した車が

2019年4月19日に起きた池袋の暴走事故は、運転を続ける高齢ドライバーと家族にとって他人事ではない悪夢のような出来事だった。

そしてこの事故に対し多くの皆さんの意見が報じられた。中には「死ぬ・あほ」の言葉を連ねる激しいバッシングもあった。さらには「高級官僚」の経歴を持つ加害者を意識した「官僚バッシング」も少なくなかった。これも安倍政権による一連の「改ざん、隠し」がその背景にあるとの批評も出された。

それだけに今般の事故、事件は世論を大きく動かしと言えよう。そこで現在82歳の高齢者の一人として、自らの想いを述べる責任を感じたことが今回の寄稿となった。

私は80歳になつたら運転免許を返すことを決意していた。それは一人の先輩の言葉からである。その先輩は65歳の時に免許証を返納した。「まだまだ運転はできるだろう。しかし、いずれは運転ができなくなる。であれば自宅からバス停まで歩く脚力と、暑い、寒い中でもバスを待つだけの気力そして次のバス停まで歩くだけの余力のあるうちに車の運転をあきらめるべきだ」という言葉である。しかし私には65歳の年齢には抵抗があり「80歳の決意」となった。

ある日のことである。近くのスーパーの駐車場で「あわやと言う幼児の事故」に直面をした。私の隣に止めていた60代と思われる男性が車を発進

した。しかし、なぜか停止しバックした。その時、その車の後ろに4歳くらいの幼児がいてその幼児を車の下に巻き込んでしまった。幼児の母親の大きな叫び声、駆け寄るまわりの人々、しかし高い「車高」が幸いをして無傷で済んだ。タイヤに触れていたら大事故であつたらう。

私は次の日、何のためらいもなく近くに住む娘の車に乗り「運転免許所」に行ったのが79歳の春であつた。擦つたり、へこましたりと言つた物損は幾つか経験をしている。しかし、仙台往復も含めまだまだと言う自信は持っていた。もしかすると、駐車場での事故に直面をしなかつたら80歳の決意も挫折をしていたかもしれない。

交通事故の被害者の叫びを無駄にしない

運転が危うい高齢者であっても運転ができる環境が続くだろうか。被害者の夫が告別式を終えた4月24日の会見で心から絞り出すような次の言葉を述べている。「それぞれのご家庭で事情があることは重々承知しておりますが、少しでも運転に不安がある人は車を運転しないという選択肢を考えて欲しい。また、周囲の方々も本人に働きかけて欲しい。家族の中に運転に不安のある方がいるならば、いま一度家族内で考えて欲しい。それが世の中に広がれば、交通事故による犠牲者を減らせるかもしれない。そうすれば、妻と娘も少しは浮かばれるのではないかと思います。今回の事故をきっかけに、さまざまな議論がなされ、少しでも交通事故による犠牲者のいなくなる未来になつて欲しいです」と。(朝日新聞・4月25日)

高齢者自らが答えを出すことが必要では

「81歳認知症の父の騒動で高齢者の運転を止める難しい実情」という1年間の過酷を経験したルポライターの田中亜紀子さんの記事を紹介する。「現在83歳のうちの父もその一人だった。運転が大好きで81歳当時も一日に4、5回車を出かけていた。車に傷がふえたのと、認知症を疑つた私が17年初めに病院での検査と免許返納を提案したものの聞く耳なし。本人は長年無事故無違反だったと激怒し、病院にもいかず運転を続ける修羅場の1年が続いた。1年がかりで運転をやめさせるために手をつくす途上、さまざまな障害や問題に出会いその難しさを体験した。そこで感じたのは、本人がやめる気がない場合、高齢者で運転があやしくなつたから、認知症だからと言つてで運転をやめさせることが予想以上の難しいことを知つた」と述べている。(現代ビジネス・4・27)

そして今般、「高齢者事故」とは言えないと思うが園児の列に車が突つ込む事故が起きた。交通事故が起るたびに社会的な論争になる。そこで再度考えたい。加害の責を問うだけでは問題の解決にはならない。「生活圏の公共交通が整備されていない」、「公共交通があつても路線やダイヤの不備があり実生活に結び付かない」という実態もありこれらの改善も必要である。同時に高齢者が「自らの問題として車運転の限界」を考へることを発信することを共通の課題にしたいと思うがどうだろうか。(降矢記)



コーヒータイム



一度放たれた石と言葉は呼び戻せない

議員の応援演説「当選が復興より大事だ」

東日本大震災の復興軽視発言で辞任した桜田義孝前五輪担当相は16日、自身のホームページに「謝罪文」と題したコメントを掲載した。「私の発言により多くの国民の皆さまに多大なるご迷惑や不快な思い、ご心配をお掛けしたことを心よりおわび申し上げます」と述べ、合わせて同氏は「被災地の復旧復興は私の一番の願いだ」と釈明し、「今後とも被災地の復興に全力を傾けていくことをお誓い申し上げます」との決意を示した。(毎日新聞・4月16日)しかし、「一度放たれた石と言葉は呼び戻せない」と言うことを知るべきである。

「戦争でとられた。ならば戦争で取り返せ」

13日、北方四島の国後島から帰港したビザなし交流の訪問団。この訪問団に参加していた日本維新の会の丸山穂高衆議院議員は、現地で島返還の手段として戦争を持ち出し、元島民らから抗議を受けていた。

次の言葉は、訪問団の団長で、元島民の大塚さんのやり取りを、同行した記者が(HTB北海道テレビ)が録音したものである。

丸山「戦争でこの島を取り返すことは賛成ですか? 反対ですか?」

団長「戦争で?」

丸山「ロシアが混乱しているときに取り返すのはOKですか?」

「はい」

団長「戦争なんて言葉は使いたくないです。使いたくない」

丸山「でも取り返せないとすよね?」

団長「いや、戦争はすべきではない」

丸山「戦争しないとどうしようもありませんか?」

団長「いや、戦争は必要ないです」

丸山議員はこの発言の前に酒を飲んでいたという。元島民らは抗議をしたが、戦争発言については「賛成か反対かを聞いただけ」だとし、「北方領土を戦争で取られたわけですから、取り返すということに対して賛成か反対か聞いたと。別にそういう話があってもいいわけじゃないですか」とコメントをしている。

スーツ姿の安倍首相、第一原発視察

およそ5年半ぶりに、福島第1原子力発電所を訪れた安倍首相は防護服やマスクをつけずにスーツ姿で視察をした。そして「現場のみなさんの大変なご努力によって、廃炉作業が一步一步、確実に進んでいますと廃炉作業に携わる人々を激励した」という記事が写真入りで報道された。

その姿を現場の労働者や福島県民の目にはどのように写ったのだろうか。もちろんマスクなどの防護を使用せずに作業ができる状態になったということが報じられて久しい。しかし、災害発生時に官邸で開催をされる対策会議には全員が作業服を

着ての参加の光景を私たちは目にしている。しかも、現地から遠く離れた東京の地においての姿とその違和感を拭い去ることができない。「もう福島は大丈夫、正常に戻っている」ということを全国的に、またオリンピック参加国にもアピールするためなのか。大阪梅田の「喜劇舞台への飛び入り」もそうだが安倍首相の政治感覚には強い憤りを持つ。

天皇の「政治利用」の現在と過去

大型連休も幕を閉じた。その陰で「子ども保育に悩んだ親」や「日給制の労働者の大幅収入減」などの負の問題も発生した。また連日のように新天皇の即位をめぐるニュースが報じられた。

その陰で密かに計画をされた目論見がある。そのことを幾つものマスコミが報じていたが次の毎日新聞(4月18日)を読む。「トランプ米大統領が5月26日に国賓として来日し新天皇と会見する。6月にも大阪での主要20カ国の首脳会議来日する予定だ。約1カ月で米大統領が2度も来日するのは異例だ。5月の来日は急ぎよ決まった。外交上の『天皇の政治利用では』との疑念の声が聞こえてくるのも、当然といえよう」

そこで次の記憶を思い出す。1960年のアイゼンハワー米大統領と皇太子(いまの天皇陛下)の「交換訪問」論争があった。1月に訪米した岸信介首相に、大統領が訪日受諾と交換に皇太子訪米を求め、首相が「努力する」と応じたやりとりだ。結果として見送られたが、祖父とその孫、血は争えないということか。

【ニュースを読んで】



■平成の時は昭和天皇が崩御されての元号改正でしたが、今回は現天皇の意向での事なのでなにか「お祭り」的ですね。安倍政権の「仕掛けた」政事？沖縄も選挙で勝ちましたが、「普天間」問題は一筋縄では行かないと思料します。私は良く分かりませんが沖縄の「経済」がまずは優先課題かなど、そこを解決しないと観光客ばかりでは沖縄は前に進むことが難しいのではないのでしょうか。

■いつも見守っていただきありがとうございます。以前に知人にも話したことです。社民党の印刷物の中でOB.G ニュースが傑出していると思っております。

■ニュースありがとうございます。ほんとに元号騒ぎにはうんざりです。連休で全てをリセットしようという政府のやり方にはまたかと呆れるばかりです。統計不正で戦争に突入していった過去を思えば、もつときちゃんと責任を取らせるべきです。

■ニュースの冒頭記事で指摘されている通りです。最近の改元の話には辟易してしまい、TVニュースを聞くのもうんざりという状態になっています。安倍政権が天皇の退位を政治ショーとして利用していますが、それに輪をかけて、各メディアがこぞつて、いわば「元号狂騒曲」とでもいうべき大合唱の毎日です。元号すなわち天皇制自体、民主主義とは親和性を持ち得ないと思うのですが、そのような疑問、問題点などは全く存在しないかの

ようなメディアの取り扱いです。

■元号など必要もなく、実際はつかうことはないでしょう。国際社会から見たら奇異の目で見られるでしょう。荒唐無稽の神話からでたもので政府が権力を維持するために作り上げたものだと思います。マスコミもこぞつて忖度し、宣伝していますが、本当は苦々しく冷めているのだと思います。参院選勝利と憲法改悪阻止のため頑張りましょう。

■平成のお二人が象徴天皇の定着に務め、矩をこえることを自ら戒めてこられたことに敬意を払いますし、元号が変わるといふことも、それなりに大きな意義のあることなのだと思います(そうやって時代を一区切りして、どんな時代だったのかに思いをこらすことに、それなりの意味があると思いますので)。ただ、今の安倍政権は、それを政治利用しようという思惑が強すぎて、この騒ぎにはほとほと嫌気がさしてしまいます。

■現場主義を大切に、そして印象に残り、見聞を広げることができ、工夫された編集になっていると思います。

■ニュース受け取り読ませていただきました。一面の「新元号騒ぎ」は賛成ですし、多分書かれると思っていました。連休中のあの人込みには耐えられませんが。

■ニュースを受け取る。そしてそれをコピーして友人に送付している。その中に鹿児島友人もいる。発行を頑張つて続けてください。



【寄稿】



渡辺 二公さん(猪苗代町)

オスプレイ 欠陥機でも空を飛ばす

民の安全 いずこにありや

オスプレイ レーダー波潜り

故障起きたら 百年目

(喜多方の上空に飛来)

前回は 小淵さんは3分

今回トップが 20分とは

安倍批判 世論調査も忖度か

突然電話が 打ち切られ

貴女には 答えのないよと選り好み

その手でかざす 令和の時代

沖縄の 民踏みつけて海埋める

その手でかざす 令和とは何

(次号に続く)

「ニュースを読んで」のコーナーを新設してきました。そしてメールやお手紙で多くの皆さんからの励ましとお褒めの言葉を頂いています。匿名掲載は今後も継続をいたしますので批判を含めてのご感想をお寄せください。なお、要望のある写真の寄稿は、印刷の関係で鮮明なものとなりません。寄稿文などのご協力をお願いいたします。(事務局)